

# 十三浜プロジェクト 2017

—地産材・地域資源を活用した建築による地域間連携と協働—

十三浜プロジェクト



特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

[http://www.shizen.or.jp/tohoku/13hama\\_project.html](http://www.shizen.or.jp/tohoku/13hama_project.html)



JAPAN WOOD DESIGN  
AWARD 2017

## 十三浜プロジェクト ～地産材の有効活用と地域活性化に向けた取り組み

山の自然学クラブでは 2011 年から石巻市旧北上町の十三浜地区において「地域の自然や資源を活用した活性化」「地産資源を大切に活用すること」、「人の手によるものづくりに取り組むこと」などを目標に、地域のみなさん、各地の NPO 等のみなさん、そして日本工学院専門学校のみなさんと協力しながら活動に取り組んでいます。

このプロジェクトは、宮城県七ヶ宿で水源を守る活動をされている特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿さんと十三浜地区にご一緒させて頂き、十三浜／相川地区の小山清さん（故人）に受け入れのご協力を頂いて、始められました。



### 十三浜プロジェクトについて 活動の経緯と概要

2011 年夏期に津波の浸水地ではスギが多数立ち枯れ、伐採と有効活用が課題となりました。いろいろな方と連携・検討して、スギを伐採して現地で製材し、日本工学院専門学校建築科の学生さんが実習課程において材料として使用、現地で活用出来る作品を製作して頂くことになりました。まず 2012 年、十三浜の相川自治会のご協力を得て、試験的に実施しました。

2016 年までに毎年、仮設住宅の近くにあずま屋やベンチを、子育て支援センターの園庭に遊具やベンチ、棚などを、農地には物置や作業小屋、陽射しを避けられるあずま屋、浜の近くには物販等に使える屋台風の小屋、など、自治会のみなさんと必要なものを相談しながら製作し、現地へ設置して参りました。毎年少しずつ関連団体や地元のみなさんとの折衝を重ねながら、足を伸ばして活動範囲を広げています。

活動は地域のみなさんと交流をしながら、現地で活用できるものを製作することを目的とし、以下の手順で進めています。(1) 学生や教員のみなさんが、現地のみなさんに役立つ、かつ、組立て・運搬が可能な作品をデザイン・提案。(2) その中からいくつか優良デザインを選んで設計し、建築物を製作。(3) 活動の周知、首都圏での広報の目的を兼ね、学園祭で展示する。(4) その後一度解体して、後日現地へ運搬、組立てして、現地へ木材をお返りする。以上を一連の課程とします。さらに現地活動として(5) 住民のみなさんの使用状況を確認し、改善の要望を伺

って改修やメンテナンスをする、(6) 地域のみなさんと季節の作業やイベントのお手伝いをするため、学生を含めたボランティアで継続的に現地活動を実施する、等の活動を 1 年を通じて行っています。

東京と十三浜・石巻など現地、双方での活動を通じて地域間の人的交流をはかり、地域の活性化にも寄与する取り組みにしたいと思っています。



## 2017年の十三浜地区／樹木の引き取り

高台への住宅、施設移転が進む十三浜地区。いつもお世話になっている相川地区移転地は 2 箇所に分かれています。造成中だった中地区も 2017 年度に引き渡しを終えました。昨年の報告に造成中の写真を載せた北地区では住み始めたお宅もあります（右端：住宅建築中の北地区）。



造成中の相川中地区

引き渡し後の相川北地区

相川北地区の現地写真

上 2 枚航空写真：2016 年 10 月撮影（石巻市・復興交流センターに掲示されている事業経過報告資料を撮影させて頂いたもの）

2016 年と 2017 年にはこのような移転地の一つ、相川の隣にある小泊地区の移転地周辺で伐採したスギを河北の製材所に製材して頂きました。どこに生えていたか知っている木々を分けて頂けるのは本当に素晴らしいことです。無駄なくすべて、そして形を変えながら、使いたい気持ちが自然に強くなります。手配をお手伝い下さる石巻市北上総合支所、連絡や調整をお手伝いして下さる自治会のみなさん、伐採の宮城十條さん、そして製材して下さる福田材木店さん、みなさんに感謝。

日本工学院の先生と学生さんと一緒に製材所を見学させて頂きました。素材の成り立ちに思いを馳せる、よい機会になってくれたことと思います。



## 現地への設置・2017年 ～石巻

2017 年は前年 2016 年に日本工学院で製作して下さった家具などを行き先、贈り先を増やして製作・対応し、現地へも何回かに分けて運びました。このところ、造成工事や道路工事などがたいへん多くなっています。また、宅地の造成が終わり、移転先に新しい家建て始める方も多くなっているなど「固定して置いておく建築物（小屋や倉庫など）」を持って行き（使って頂き）づらくなっています。そのような事情もあり、今年は屋外に設置するものではなく、屋内で使って頂く家具やベンチ、フリーマーケットなどで使って頂けそうな台や棚などを中心にお持ちしました。

相川地区にあるの子育て支援センターでは、今年園長先生が交代されました。4 月の活動の際に、ちょうど新しい園長先生がいらっしゃるとのことでしたので、お伺いしてご挨拶をさせて頂きました。新しい園長先生は昨年度まで橋浦の子育て支援センターにいらした先生でしたので、活動のことをよくご存知で安心しました！これからの活動についてもいろいろ相談させていただきました。昨年作った棚も活躍？しているようでした。



2016年にできた復興まちづくり情報交流館（北上館）でも作業させて頂きました。交流館は「街の将来像」「復興事業の進行状況」「地域の取組に関する情報」等を展示してみてもらうためにできた施設で、震災前後の写真展示もあります。復興交流館ではご担当の方から物販などの時に使用していただける、テーブルやベンチが欲しい、とのご要望を頂いていました。脚を現地で作業してちょうどよいサイズに組み立てました。テーブルの天板が軽自動車に乗るサイズだったようで、持ち運び可能で、ちょうどよかったです。



2017.03.29  
**石巻・北上地区で初の手づくり市、好評 地場産品や小物を品定め**

手作り小物やワカメなどの地場産品を販売する「きたかみ手づくり市」が26日、石巻市北上町十三浜の市徳興まちづくり情報交流館北上館駐車場で初めて開かれた。

地域住民が丸となって復興を目指す北上地区に足を運んでもらおうと、海産物や農産物、小物などが販売された手づくり市



交流館では3月26日、念願だった第一回目の「きたかみ手づくり市」が行われました。ワカメの時期でもあるためか、たいへんな人出であったそうです。新聞などにも載り、話題になりました（上：2017年3月29日河北新報）。

開催に携わった方々はこれで勢いづいて、マーケットへの出店、出品等の活動が活性化したそうです。近所のみなさんと、市内にある公園等でも月に一度程度、フリーマーケットに出店されているそうで、私たちがお渡ししたテーブル等を使っていたら近隣の方の目に留まり、また作って下さい、とご注文連絡が！

次回以降に作って持ってくるので活用して下さい、とお伝えし、工学院のみなさんが再度、製作に取り組んで下さいました。

夏に再訪した際に追加版をお渡ししたところ、さっそく当日からお使い下さいました。

無垢の木目がきれいで好評。嬉しいです。



## 建築の調整・メンテナンス・追加などの現地作業

この活動の現地活動で大切な仕事は以前持ってきたものを使って頂きやすいよう、また、使い続けて頂けるよう繰り返し手を入れていくことです。現地での設置・製作も 5 年目。以前持ってきたものを改修したり、増築したり、解体したり、また組み合わせて別のパーツに使ったりと作業を重ねています。使って下さるみなさんが補強したり別の活用方法を見つけて利用して下さいたりもします。このように繰り返し使い続けることができるのは木材の大きな利点でもあります。

さて、2017 年の春、活動を初めて最初の年につくった作品をバラした材を少し十三浜から気仙沼の活動地へ持ってきました。しっかり紙やすりをかけている材なので、果樹園の踏みづらの改良に使ってみました。砂で埋めてみると、なかなかよい感触になりました。

過去に持ってきた材がもう少しあるので、果樹園の歩道などにも使ってみてはどうかと思っています。相談しながら活用していきたいと思います。

実はこの材は、一番最初にこの活動を始めたときに木を提供して下さいった小山さん（故人）の山から頂いたものです。小山さんがいらっしやらなかったらこの活動はできなかったかもしれません。改めて、感謝を申しあげるとともに、何ひとつ無駄にすることなく、使い続け、使い切ることに決めています。初心を忘れず、これからも活動をしていきたいと思います。



## 現地への設置・2017年 ～気仙沼

十三浜プロジェクトでは、2016 年から気仙沼の「海への森をつくろう会」さんの活動地でも、現地活動をさせて頂いています。

ベンチや展示台は有効に活用して頂けそうなので、日本工学院のみなさんが「おおたオープンファクトリー」用につくった棚などを改良して持ってきて下さいました。持ち運びできるので、いろんところで使って頂けそうです。また今回、以前、移転地で伐採したケヤキを輪切りにしたそうで、先生が持ってきて下さいました。前日に念入りにグラインダーかけていらっしやいましたので、きれいです。

さっそく試作品のジャムを並べてみると、何ともいい感じに。



## おおたオープンファクトリーへの企画製作／東京と石巻を結ぶ新しい展開

日本工学院専門学校では、八王子専門学校で中心となって活動して下さいっていた渋谷先生が蒲田校へ転勤されたこともあって、これまでの八王子に加え蒲田校の建築学科で「おおたオープンファクトリー」に関連した活動を新しく検討しました。「おおたオープンファクトリー」は多摩川の下流に位置する、日本有数の“モノづくりのまち”大田区の町工場を 1 年に 1 度、一

齊に公開する取り組みです。新田丸エリア（下丸子・新田丸エリア）の工場公開などを中心とした日と、工場アパート（テクノ WING、OTA テクノ CORE、テクノ FRONT 森ケ崎）や工業専用地域（京浜島・城南島エリア）の限定見学オープンやバスツアーが企画される日の2日間を中心に広範囲でイベントが行われます。

学生さんが「おおたオープンファクトリー」に必要と考えられるものを作ることで運営スタッフや工場の人たちと共同の作業を経験してもらおうという考えで、その製作に十三浜の木材も使って頂き、イベントの終了後、工場や学校で使うものは使って頂く一方、一部の作品は現地へ戻して頂く予定です。学生さんが製作しながら工場の方から要望を聞き取り、製品の展示台やパネル台、ベンチや道案内のサインなどをイベントに合わせて製作、また製作した家具を関係者に見てもらってさらに改良するなどしたそうです。2017年は工場アパート（テクノ FRONT 森ケ崎）へ訪問。活用して頂いている状況を含めて、見学して参りました。



これら一連の取り組みについて、“カマタマルシェ”【KAMATA Marche】と名付けて日本工学院のみなさんが中心となって2017年 Wood design 賞に応募したところ、賞を受賞することができました！



（別稿・受賞報告もご参照下さい）

### 十三浜・2017年の活動と浜の歳時記

今年もたくさんの浜の恵みとふれあい、感じ、楽しみ、感謝をする一年でした。浜のみなさん、浜を訪れるみなさんとの日々が私たちの活動の糧となっています。

#### 【春の十三浜】

3月から4月はわかめ収穫の最盛期です。波がよければその日の分を収穫して家族総出で作業をします。水揚げしてすぐに茹であげるのがおいしさの秘訣。水揚げしたわかめからメカブを切り分け、その場で塩蔵にします。仕分けなどの作業はその後作業場でもできますが、ここまでは浜での仕事です。肉厚でしっかりした味が十三浜わかめの特徴です。しゃきしゃきの歯ごたえ、たまりません！



#### 【8月・十三浜夏祭り・2017年！】

2017年は8月13日に十三浜夏祭りが開催されました。これまで開催していた相川地区は国道などの工事が進んでいて、お祭りが実施できないため、今回は大



室地区での開催となりました。前日にお手伝いに行くと、お神楽用の舞台が組み立て中でした。地元工務店の方を中心に、いつもながら手際よく組み上がって行きます。長雨のためか、材が膨らんでしまってホゾがうまくはまらなかったりしたようですが、さすがに慣れていらっしやいます。

当日の正午、子供歌舞伎から幕が切って落とされました！この日に向けて特訓した成果でしょう。見事な舞を見せてくれました。いつもいらして下さるミュージシャンのみなさん、協力して下さるボランティアのみなさん、そしてもちろん地元の方がそれぞれ協力してすべて手づくりのお祭りです。今回、山の自然学クラブのメンバーは、本部テントの販売を担当させていただきました。お祭りの運営の支援のため、バスツアーでいらしたボランティアさんが一緒です。大阪からいらした方も！

今回も、相川地区に設置したピザ釜で、水守の郷・七が宿の海藤さんがピザを焼いて、それを会場までデリバリーをしました。食券を会場で販売して、釜から焼きたてピザが届いたら引き渡します。

前日まで現地に活動にいらしていた日本工学院のみなさんが、テーブルと棚を作って置いておいて下さいました。お祭スタッフにお渡ししたところ、さっそく会場で T シャツや本の販売など物販に使って下さり、喜んで頂けました。有効に使って頂けたのでよかったです。

今年も海老名のみなさんを中心に寄付を集めて、花火をあげることができました。ギタリストの八島さんとファンの方のみなさんを中心に熱心に支援を続けて下さっています。この日の演奏でも八島さんとその仲間のステージがメインイベントのひとつです。

仙台の芳賀さん、いつもたいへんお世話になっている花火屋さん(火薬商さんですが)です。20時過ぎ。フィナーレを飾る花火がうちあがります。隅田川の川開きの花火ももとは大火のあとに始まったと言われてはいますが、何回かこちら十三浜で見ることができた花火。感慨深い思いで拝見いたしました。

きれいな花火を見て、みなさん満足して今日のお祭りは無事終了。

今回もたくさんの方が献身的に動き、長い1日を楽しく気持ちよく過ごさせて頂きました。



## 新しい展開への期待

2011年からご縁があり、活動の情報をやりとりさせ続けている石巻市の渡波地区近くにある黄金浜というところに、子育て・不登校支援をする団体「こども∞感ばにー」（通称：こどばにー）さんというNPO団体があります。こどばにーさんは、お子さんの遊び場の開催と運営、放課後・未就学児対象のあそび場の開催、「自然とともにEcoキャンプ」、などの活動をされています。現地の状況が、工事等が多く流動的であること、ちょうど相川地区の子育て支援センターの園長先生が退職して渡波地区に新しく赴任されたタイミングであったこともあり、今後は何かご一緒できるかもしれないと考えて、日本工学院の先生とご一緒しました。

写真は黄金浜で運営されている、遊び場です。今度はこちらに井戸を掘るよ！と代表の田中さんは張り切っていました。

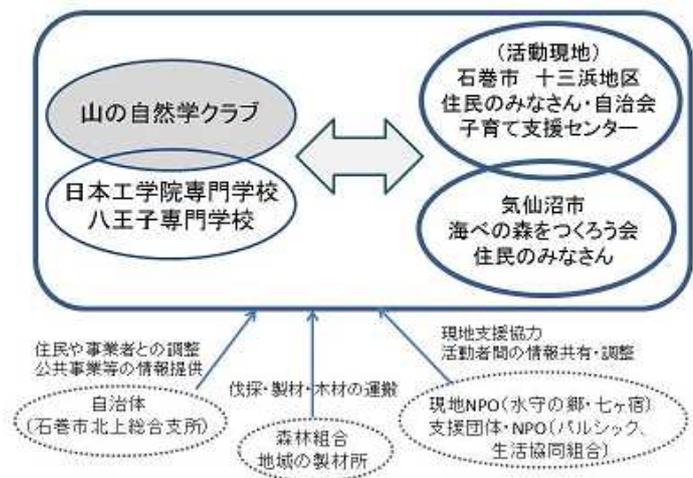
プロのプレーワーカーさんの仕事は拝見していたいへん勉強になります。田中さんのお言葉も、ひとつひとつが深みがあって、考え方も素晴らしいと感じます。これからの活動で、何かご一緒させていただけないかと考えているところです。



## プロジェクトの実施体制とこれから

この活動は、多様な主体が献身的に関わってくださることで成り立ってきました（図）。

現地のみなさん、そして柔軟に対応してくださる石巻市北上総合支所や森林組合・製材所、水守の郷さんはじめ活動仲間のみなさん、すべてのみなさまが同じ様に大切な役割を担ってきたと考えています。



このプロジェクトでは、毎年その時期に伐採される予定の樹木を教えて頂き、その木を可能な形で利用させて頂くことを基本に進めて参りました。今のところ、事業のために伐採する木を有効活用させて頂くことをしていますが、今後はそのような場所も少なくなることが考えられます。現地の状況等に応じてこれからも地域資源の活用をはかりながら活動を持続的に進めたいと考えています。

今年、延びにのびていた相川中地区の高台移転の引き渡しを終了し、ようやくみなさんがお家を建て始めたところです。今年の年末がいよいよ仮設住宅で最後のお正月にできそうです。新しい国道も出来てまいります。工事がどのように進むか、現地にどのような変化があるかわかりませんが、来年以降の8月もぜひ十三浜のみなさんと夏祭りを一緒に楽しませて頂けたら、と心新たに致しました。すべてのみなさん、ありがとうございます。

また十三浜に帰ろう、と思います。